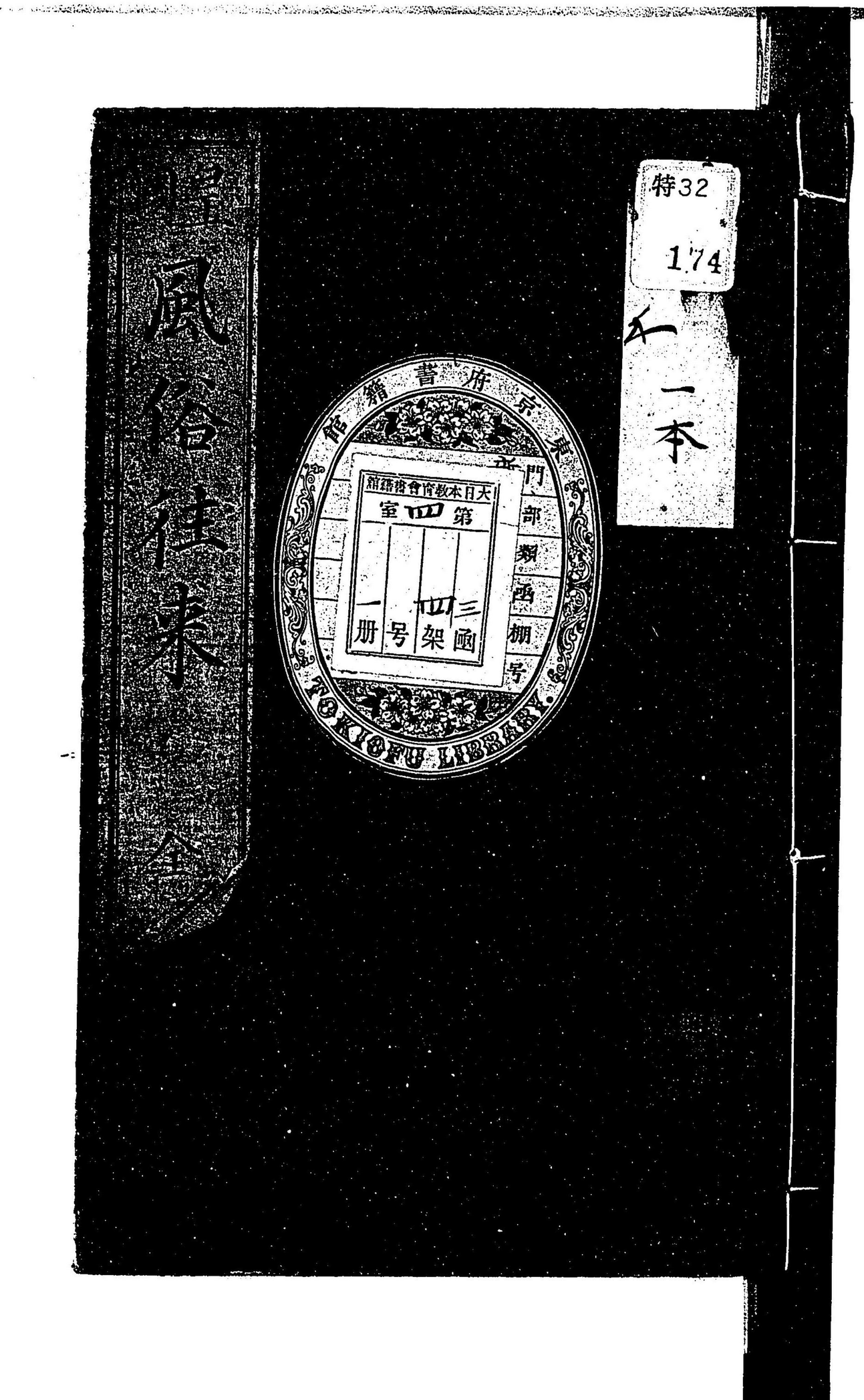


027312-000-6

特32-174

皇国風俗往来

巻菱潭書

刊年不明

ADJ-0063

特32
174

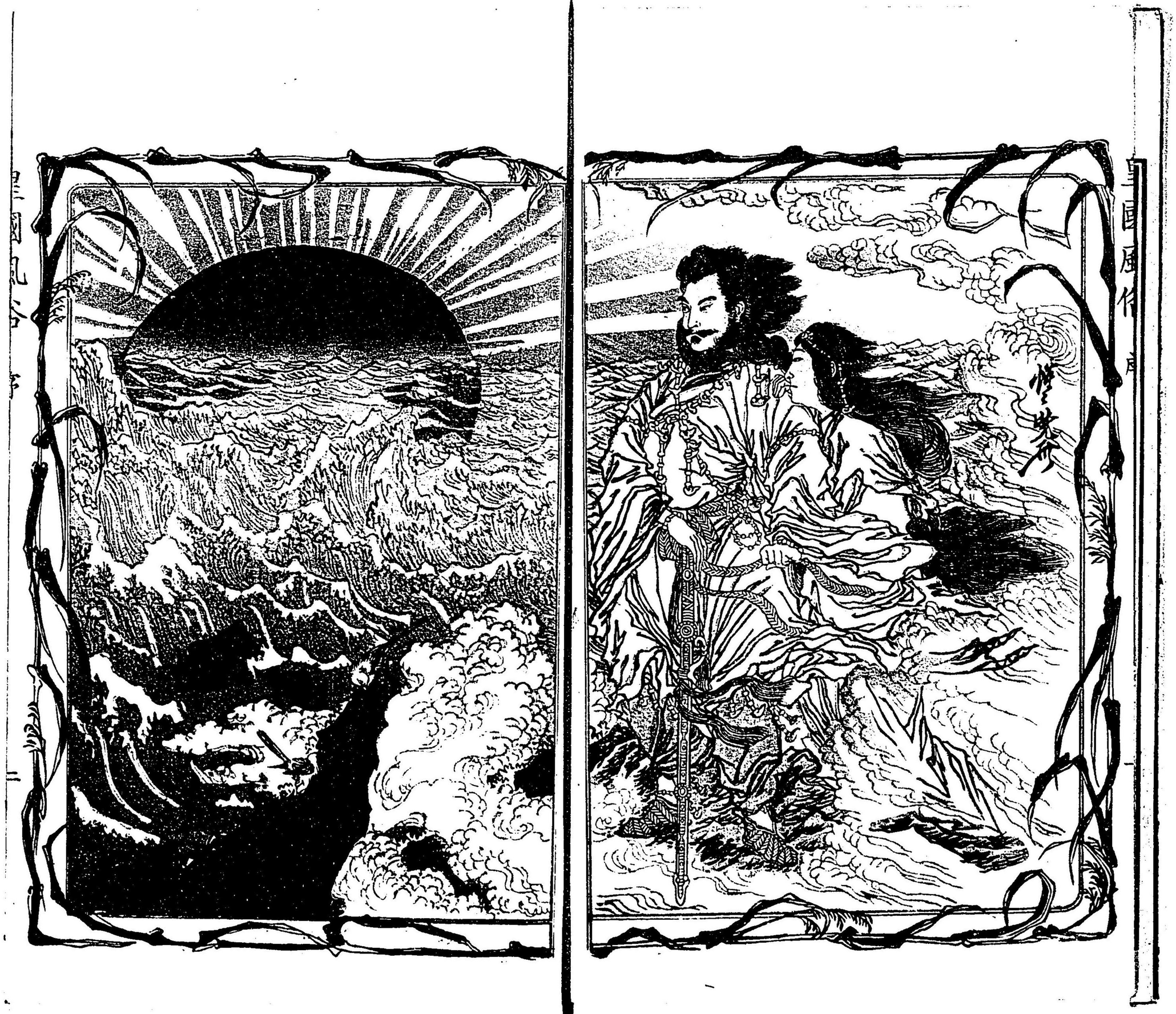
皇國風俗往來

滚澤菱潭書

東京 萬笈閣發兌

序

菱潭


悔恨

天地と和合して
生るものは人物と
我が身一

菱湖

皇國風俗序

菱湖寛書

凡世界の風

俗を生ず。

あまねく国家

内外の人

ども。時代に

て。治革等

変ある者

海内清淡
無事にして
和の皇國の
風俗なり。
神代の
まもり
君上の

位(らゐ)にて。臣民(しんみん)

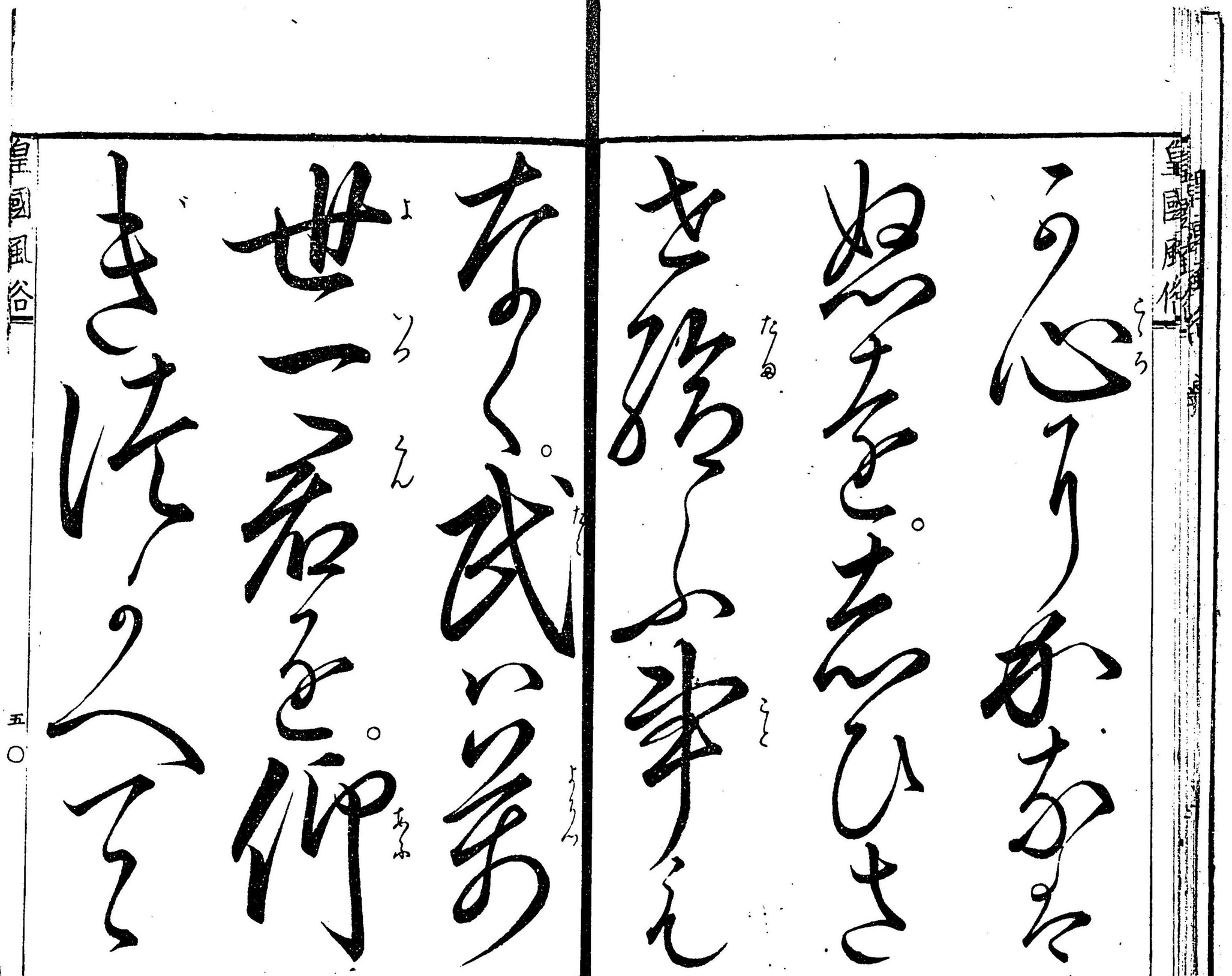
鏡沖(きやうぎよ)に茅(ぢ)を樵(こん)

の者(もの)なり。

世(せい)大(だい)神宮(じんぐう)

民(たみ)を大(だい)

沖(ちう)寵(ちよう)夫(ふ)



かし　しも

上下乃一和

むま　たて

を主とし

たまふ。

うし

はゞめ　にぎ　くし

めさる天

にぎ　ま

和國和

お　ま

御谷不負不。

通杵の君

この生涯を降

君帝全

東日向乃

國ふ代を

理て中興

神武天皇の。
幸國を紀
元とす。夫より

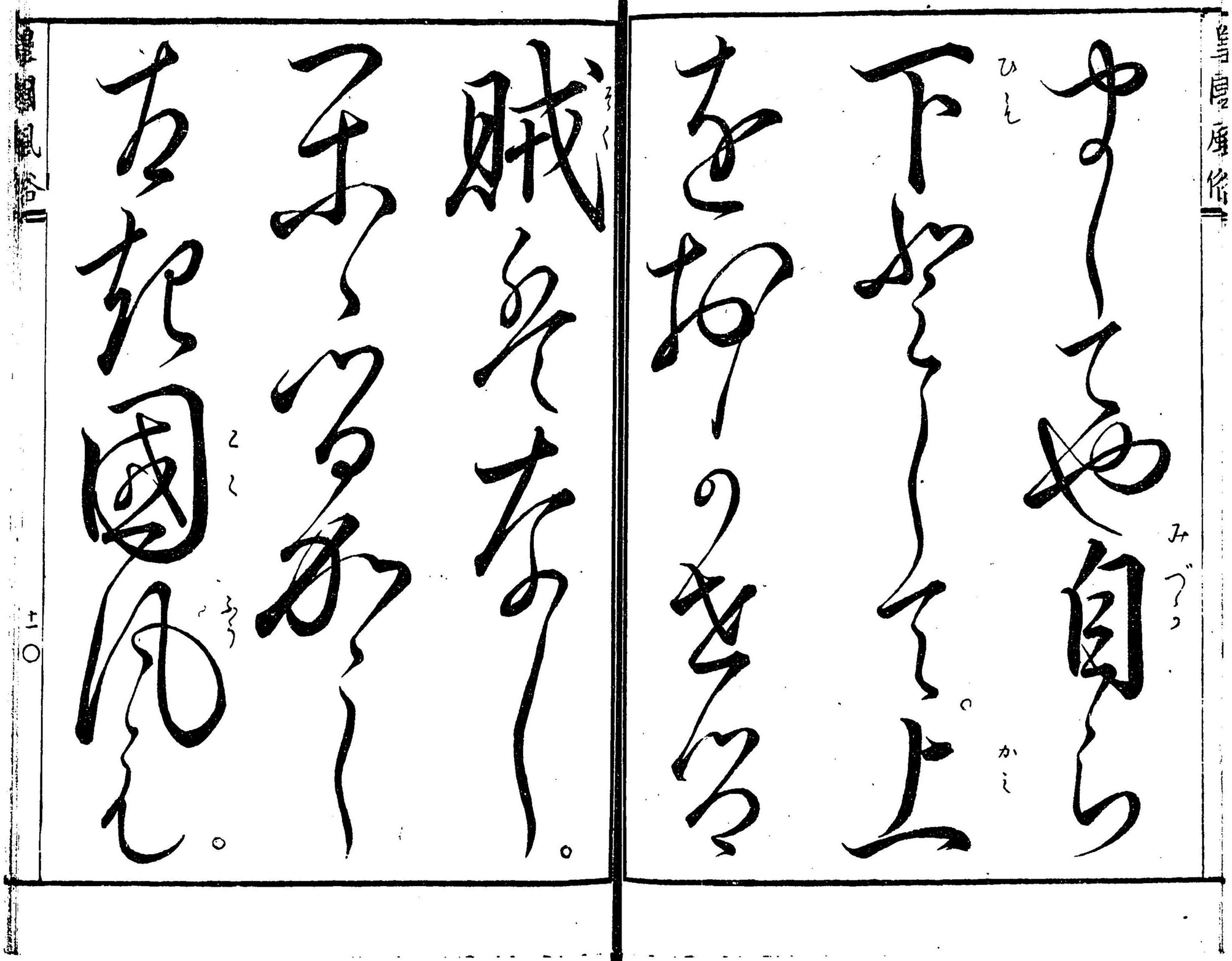
以来代々よ
り歴代國
乃盛衰世の

風俗通

和名抄

蓬蒿

蓬蒿



凡ほきは
かくることな
ぎの天(あめ)つ日(ひ)影(かげ)

えむら雲(うん)ふ。
志ばしいらへん
るなられりや。

朝鮮ひと度(たび)中国(かう)へ入(ん)よりの。檀君(ぐん)檀君(ぐん)

考(かつ)ふる。武昌(ぶしん)闘爭(さう)古(ぐや)を

志(こころ)穢(あ)の赤

ちの
きえ

政權
ぜいけん
武門
ぶもん
の
ほ
ろ
び
て
朝廷
ちょうてい
衰
おとろ
へ
て
政
まつり
ごと
を
天地
てんち
の

死去て起る。

吐出す事ハ

ほんの

ほんの

数年

数年

有志の士

ものゝ

起る

以ものを
ひとりの
君國乃
交際を
かつこく
さい

御國威を
おんこく
あがめまつり出づる
いづ
志を
こころざし

海外諸国の
こくこくそれぞれ其
しゅくしゅくたる事
國爵にて

西國見合

西方の名山の
めいざんくふ
方丈国なり。
ほうじょうこく
教主神仏
きょうしゅしんぶつ

中庸道文
字書文那
文字西洋
文字。承傳
名義孔
子ちうの
海ゲ。

固有の学問
名教の文武
乃醫学地理
天文家理歴
史学法律学
兵学治法

陸政治学。曰海產。航海業。農業。工商。器械学。精密。畜牧。植物學。

本草圖畫
學建築等。
生徒の技藝
本末を考ふ。
是れ如何ぞ
東京の。

府下を過ぎ
めて府縣下
の津浦の
未だそこに學
校設けはまま
ひ人民

保護の恵を
受て
きりの舞をり
とゝけ
て世界の
事をとゝまて

用ひて自國
の良智を
かく種とす。

藍より出でて
藍よりあをし。
色はもとの

ら
を
は
古
こ

今
うん
を
か
ふ
よ

國
こく
の
ふう
風
ふう
を
ふ
ま
ま

乃
の
和
わ
魂
こん
漢
かん
才
さい

ヤマトダマシヒ カラノサエ

如
し
る
人
じん
金
きん
言
げん

若
わか
き
き
世
よ
習
ならひ

頑固にして
夷を攘
狄敵愾
兎角
言ひて
乃ち中華

ひい中ちう

ごく

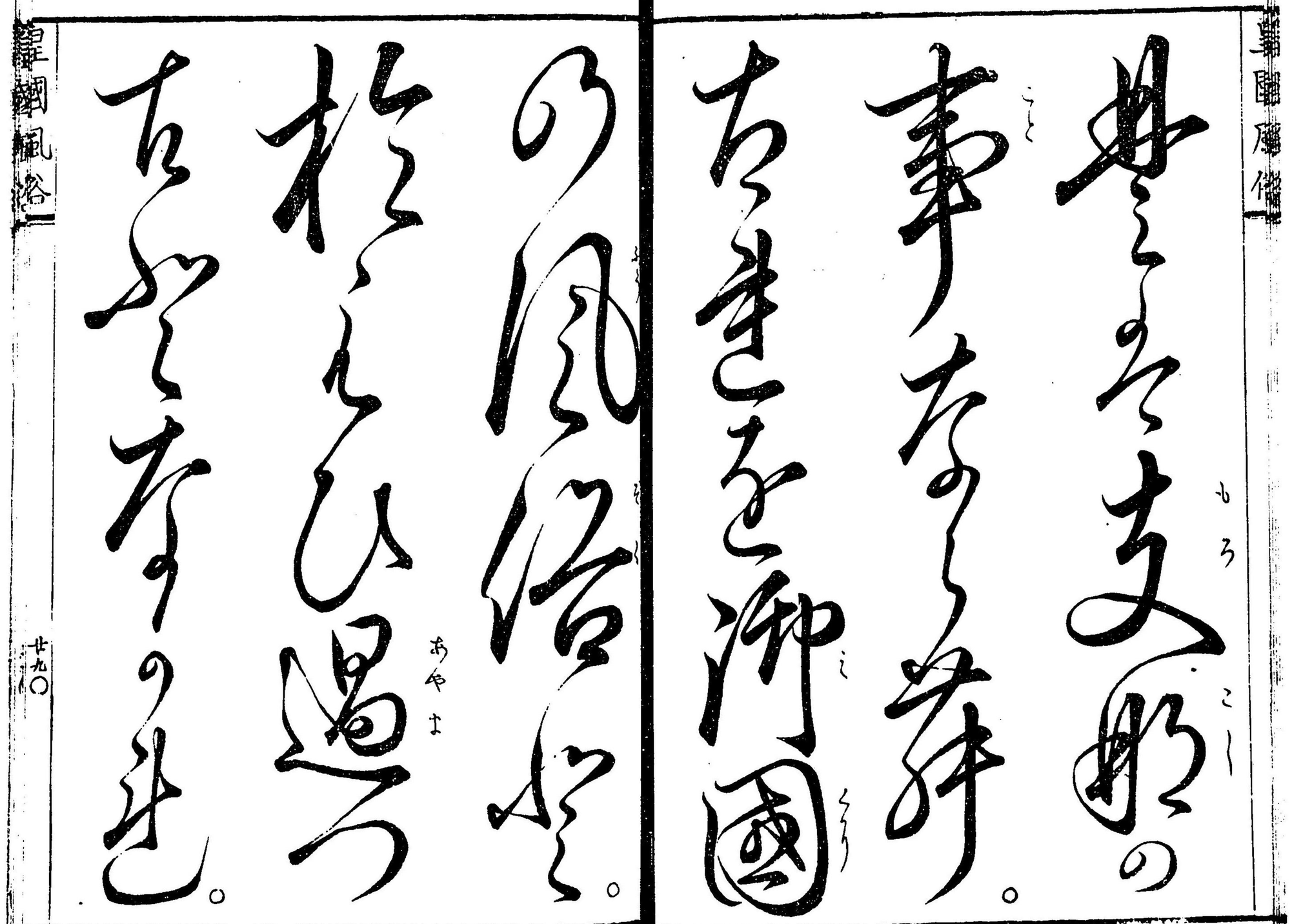
ほそ

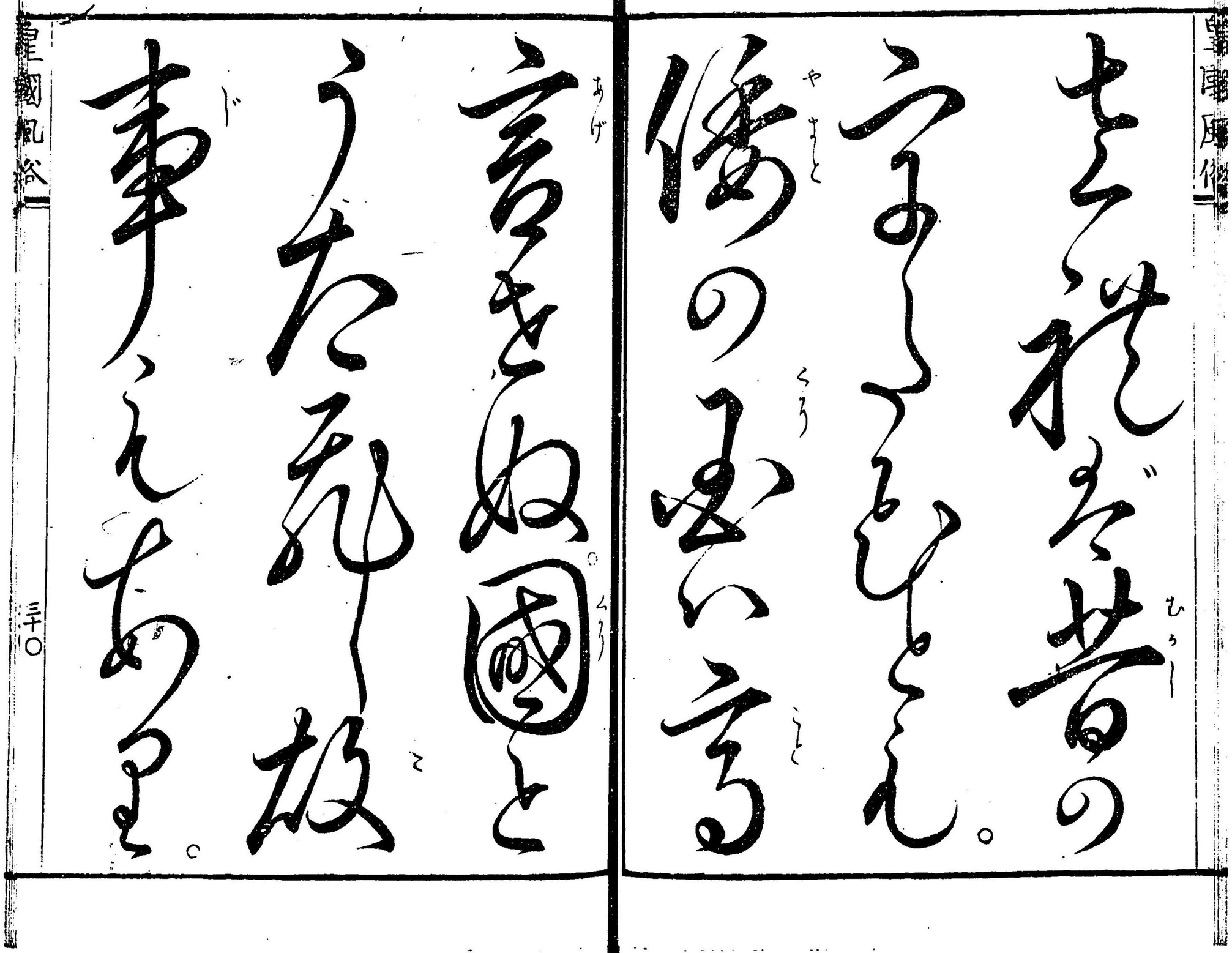
ぶりと

ぶは

ミグ

た





さて五畿の其地は太平海を東南に隔て。船を浮て西土に渡る。

西亜乃東よ
獨立。如佛
蘭二千九百。

四十四万五千
とゞ中ゝ
ゝ沼海の

国司、京より下る。

京より大坂

府まで下る。

関城、多し。

敦賀へ廻る。

三脇の港。

經て東京
小田原
を過ぎて問
凡そ五九
里と六十一里
河原と称す。

東京京畿

大坂の三府

ちん　さら　ふ

小縣六十

縣琉球尚

ちん　りきう　ひさ

藩知ひ和

ちん　ち　ひ　わ

海道東南

拓使官。管轄二十二全國。

郡數七百十七郡。古於內

八十七郡を。

あらしの海原。

はくらいの海原。

越後の國。

かたちの樣。

ふるさとの國。

西のうみ。

郡名

ゝもゝ如べゝ。

金國(ぜんこく)

の石高(だかう)

千一百六十(せんいちひやくろくじふ)

二万(にまん)。

琉球(りうきう)

十四万(じふしまん)餘(よ)。

戸數七百
零五拾六
九百六十餘

人口萬乃大
凡三百三
七十九拾四

六百九十餘
年而此族
華族人數
四百三十四人
而其族
累二百餘

五百七十九人
港の戸数
凡三百四十
鍾口
乃概
動産

物の甘味

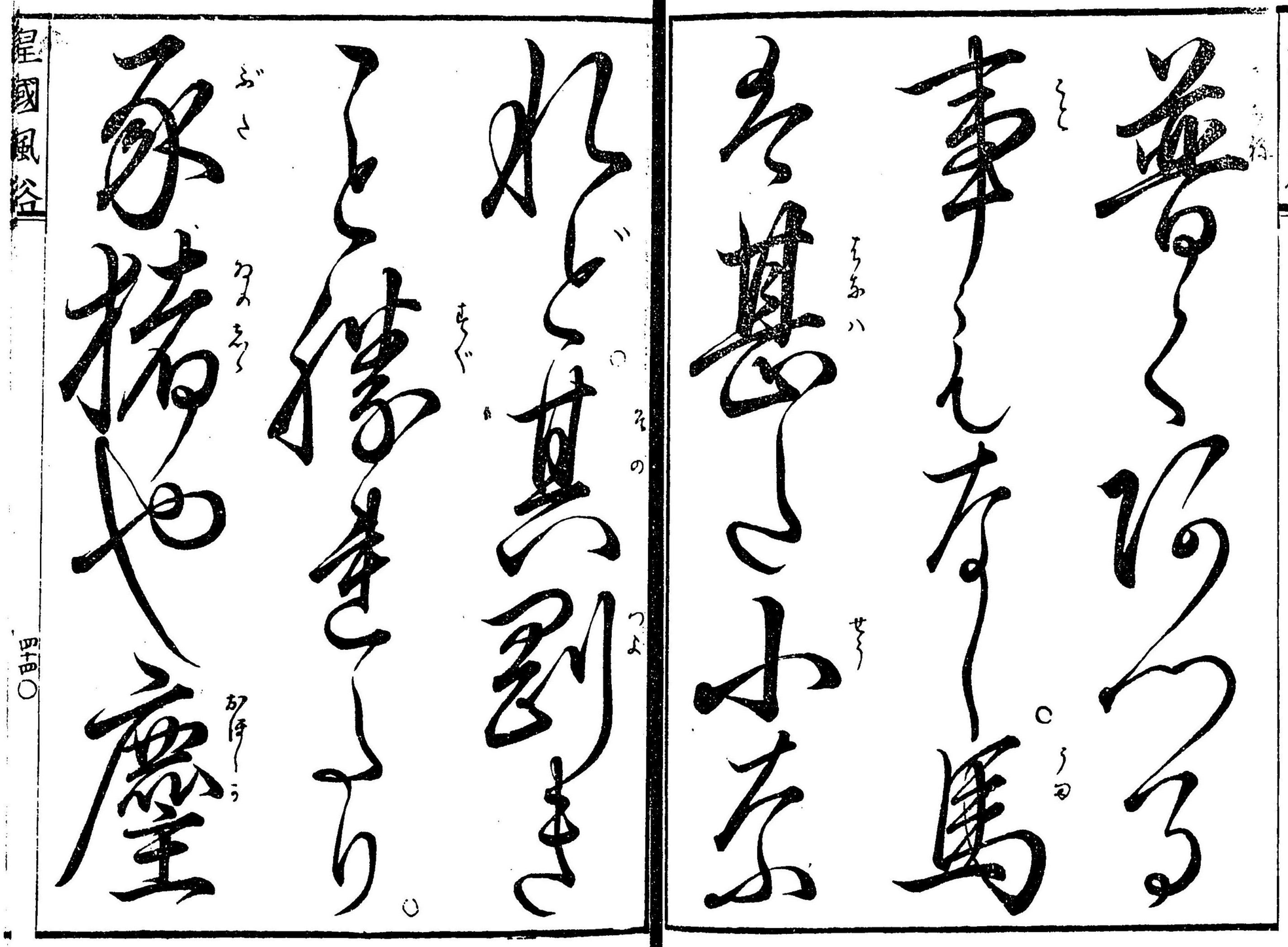
少きくを

獣肉

羊山羊駱駝象犀

豹狸

人の角くゝ
ゝ牛
役ゝ
孫
乳酪
額に金
用ひ



鹿熊猪兎
きつね狸狐狸よ
猫鼠鳥鶏

蟲蝶鳩鴉
おうむ多く
國北邊用い

海老。海老。

水母。水母。

海中。海中。

鯨。鯨。

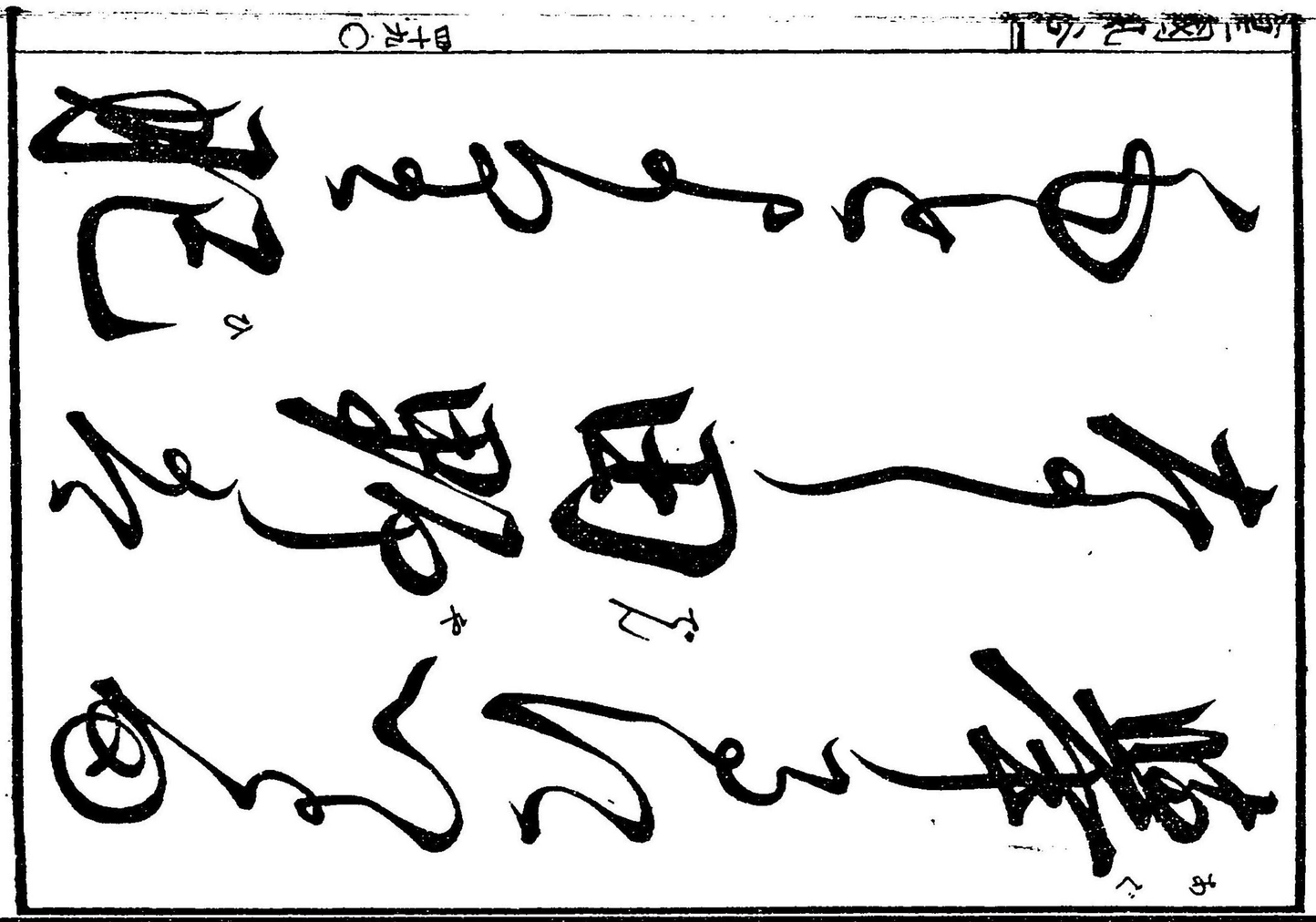
鮪。鮪。

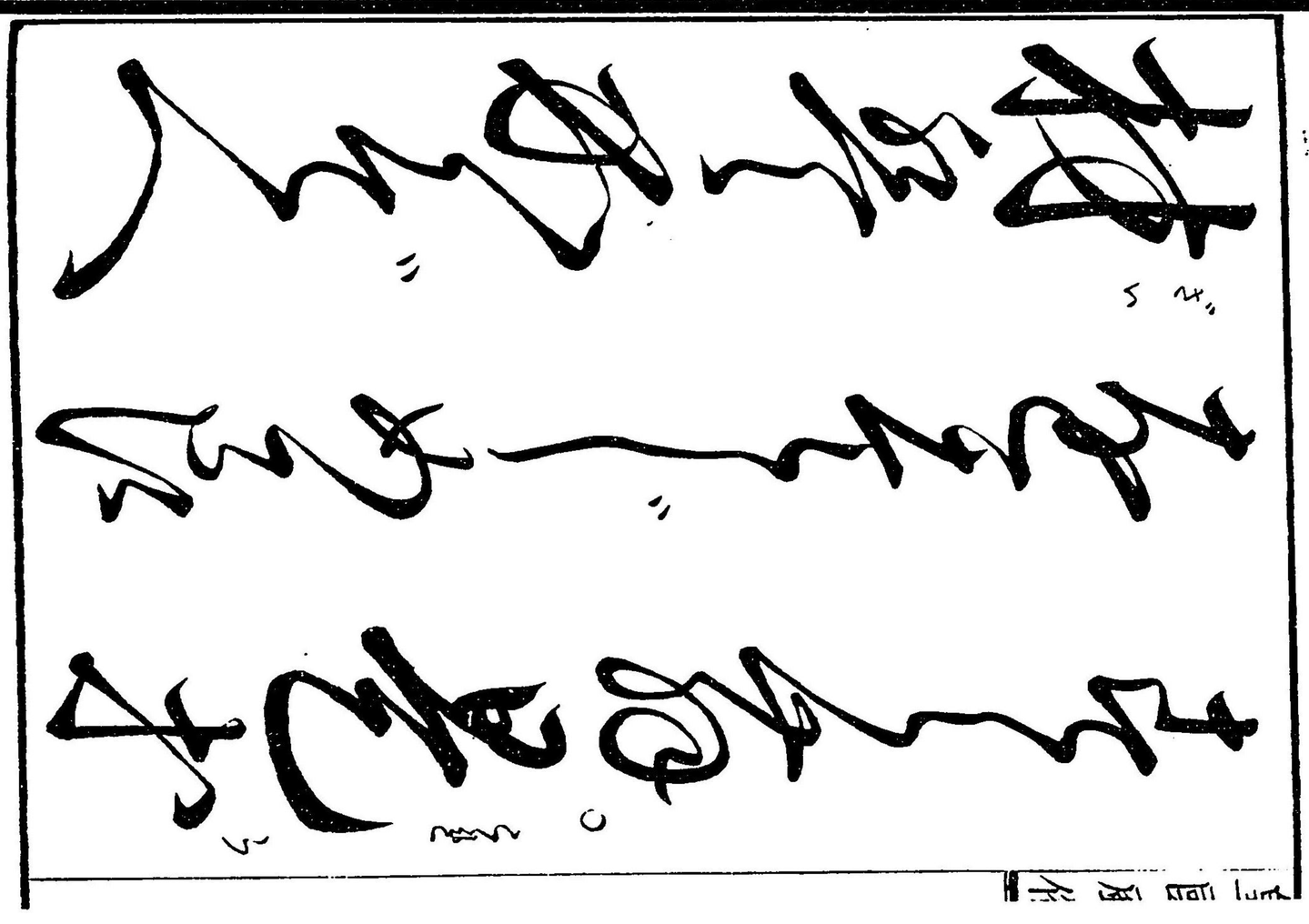
鱈。鱈。

鰻。鰻。

於之春乃時。
乃時。
佐久良。
櫻。
植產物。
梅。
松。
桃李。

櫻を色を注ぎ
新芽を伸ばす
板材を用ゐて
世界の道を
心の花を咲





沃土。人民耕稼をまなびつとめ。

開墾事業。年々歩々。

再興事業。年々歩々。

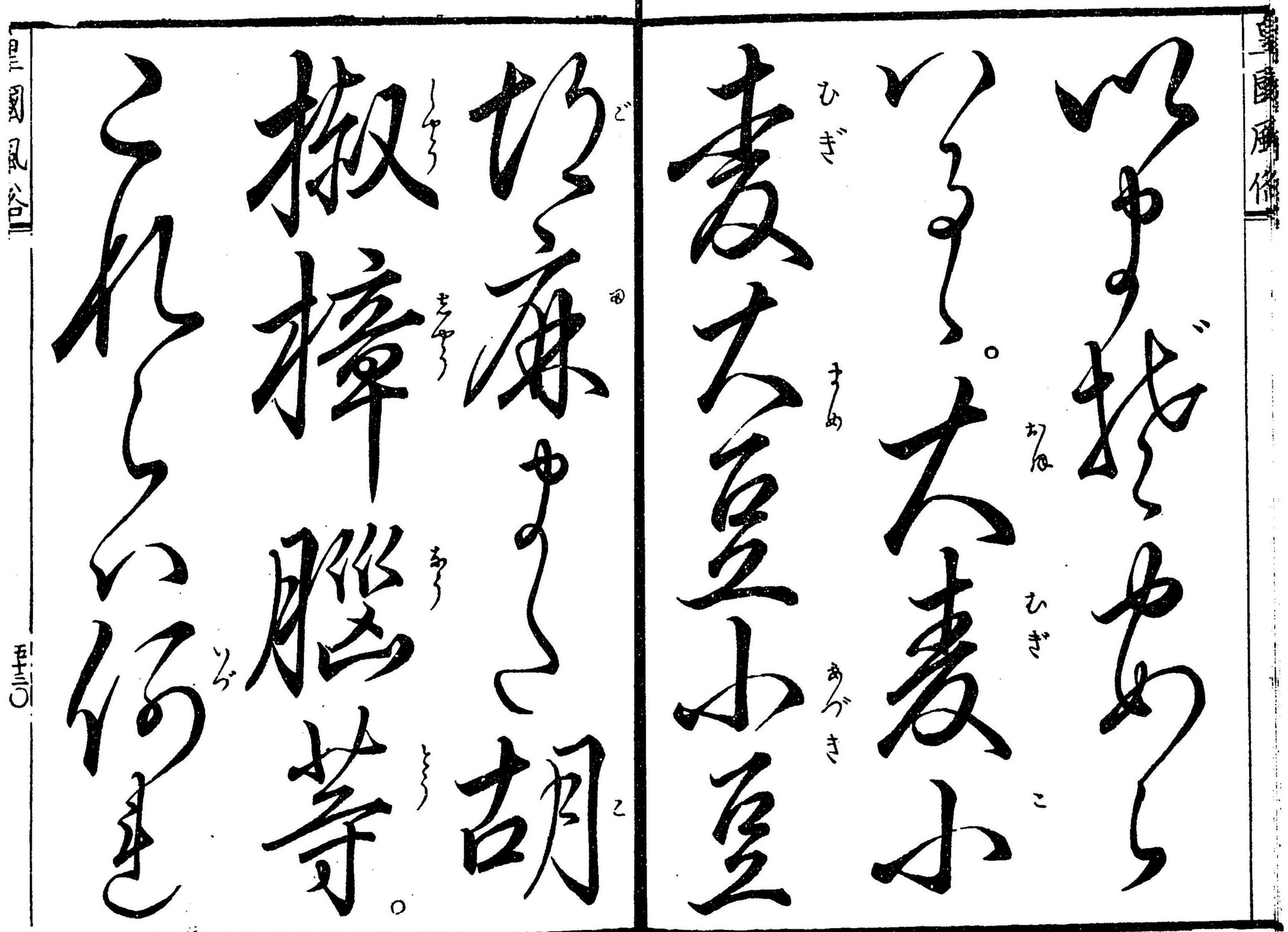
皇國の面目

南面の
地形糧畑
茶の茶の新。

東北の地
桑畑蚕
蠶絲糸の

たるて。織物
多く。高貴
米を
陸さら

分量り。
揮稿
名を。


麥
大麥
小麥
豆
小豆
麻
胡麻
椒
樟
腦
荷

の地もたんあり。
礦屑物佐
渡もどめ福

吟富者玉
地多く金銀
錫鉛
細鐵

その内、こと絃さら

金環（きんぐわん）数珠（じゅず）

○輪（わ）出（ちゆ）る品（しな）

米麦（めむぎ）也。鍋（なべ）

綱（あぐな）

石炭（せきたん）。

蠶卵（こだね）

蠶糸（きいと）

生綿るゐ昆布茶煙草ほし海老なり。鯣あるひはほし鮑。材木樟脳製造の。

ものを漆物

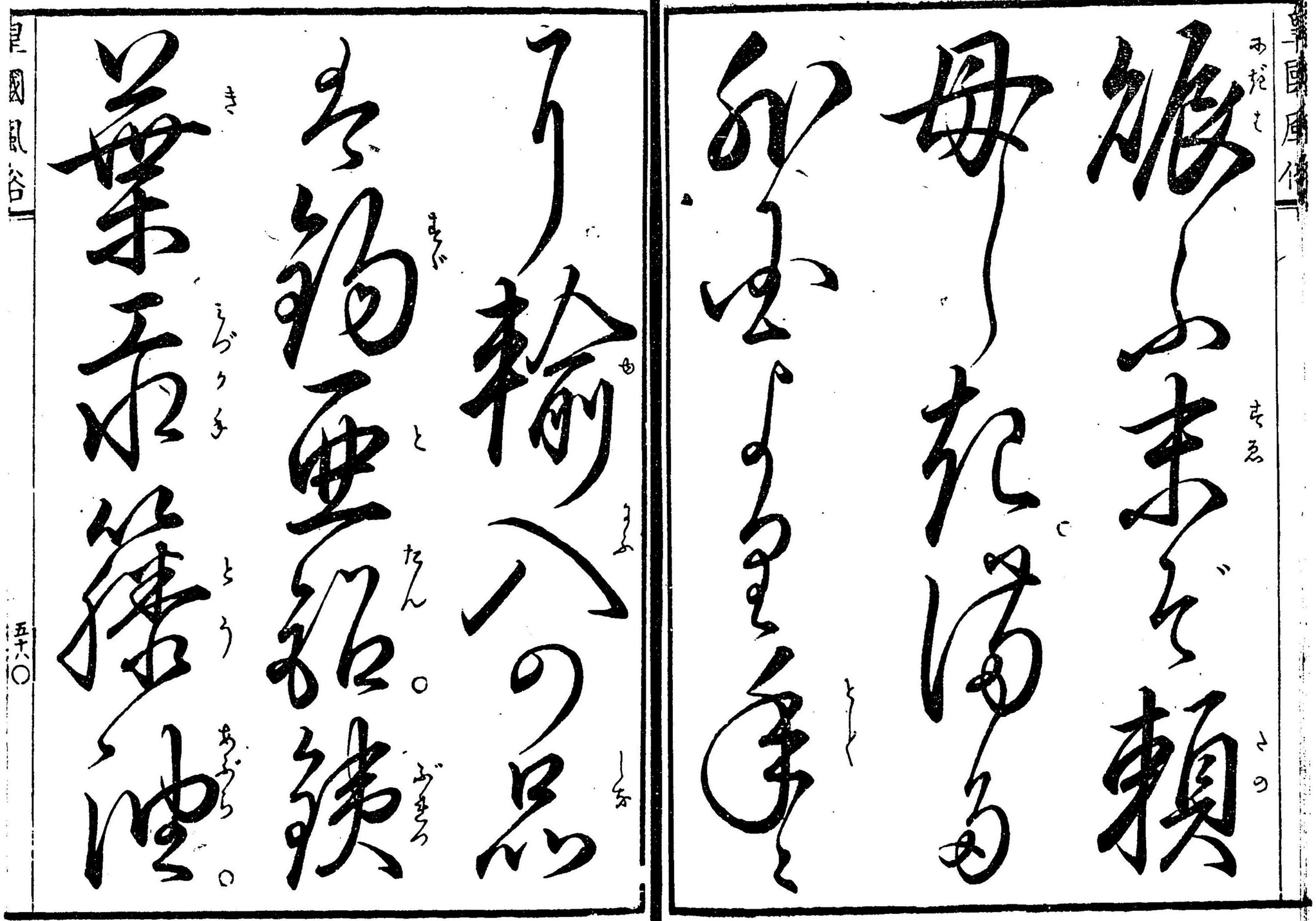
陶器（やきもの）を本とする

此て人の

必ず盡くす

を勤め年々

まさる産物



瑇瑁甲珊瑚。琥珀象牙金巾更紗羅紗唐機昊紗唐くさけ書籍機巧

道具西洋渡来。

舶来をもて

西國の紙民の

用産業。

繁昌する代

の力こそよ